



町指定有形文化財

台宿薬王寺薬師堂

埜町指定 昭和51年2月12日

所在地 大字台宿字大久保53

本堂は、延宝（1673～80）の昔、米山中興の祖と言われる宥善上人や、安永（1772～80）年間の義観上人らの布教等によって、八溝山をとりまく広域に『米山薬師信仰』が高まり、多くの信徒達の寄進により、寛政2年（1790）の春、建立されたと伝えられている。

本堂は、素木造りで、禅宗様式を加味した、この地方には珍しい壮大な造りである。屋根は宝形造りで、方三間、二重の疎垂木。柱は円柱や八角柱を用い、出三ツ斗で、頭貫上には台輪を回し、柱間の中備えにも組物がある。堂の三方は横板壁で囲まれている。回廊と天

井は未完成で、内部から斗栱が見える。堂内は拭板敷で、四天柱を境に内陣があり、腰高の祭壇となっている。

本堂は、米山山頂にある奥の院の祭殿として営まれたことから「御仮屋」の呼び名が残っている。四月祭り（春まち）と夏の終わりの八朔祭りは、米山祭りと称せられ、近郷近在より多くの人々が集まり、賑わいをみせていたという。